

全国就労移行支援事業所連絡協議会主催

第二回 就労移行支援タウンミーティング アンケート集計報告

実施日：平成 25 年 7 月 13 日(土)

場所：大阪府社会福祉会館 403 会議室

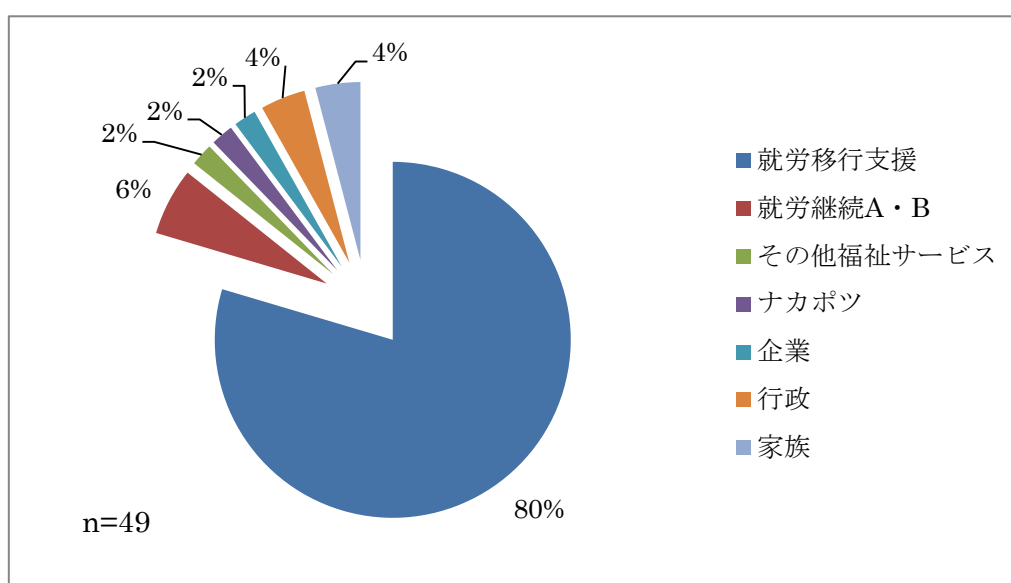
参加者の概要

参加者数：90 名

内訳

一般参加者：78 名（大阪市内 20 名、大阪府内 28 名、大阪府外 30 名）

講師・発表者・実行委員：12 名



アンケート回答数：49 件

アンケート回答率：63% (49/78)

自由筆記部分に寄せられた参加者の声

<就労移行支援タウンミーティングに対する感想・ご意見>

本日はありがとうございました。就労移行支援事業としての課題や今後の展望などのお話が聞け、とても勉強になりました。もし次の機会がありましたら、定着支援の方法についてのお話を詳しく聞けたらと思います。

貴重な会に参加させて頂きありがとうございました。

現在、事業所を開所したばかりで、今後利用者の受け入れを始める中でとても貴重な話が伺えました。

他施設の取り組み方、思いが伝わってきました。大変気持ちが明るくなりました。就労移行支援があつて、働けなかった人が希望してくることもあつて、嬉しかったことを覚えています。“働ける”希望を持つためにも(就労移行支援事業は)あつて欲しい。

実践報告でいろいろなヒントをもらいました。さっそく月曜からの仕事に活かしたいと思います。
課題として考えていることが同じということ共有でき、心強く思いました。
本日は貴重なお時間を割いて本会合を開いていただき、誠にありがとうございます。非常に学ぶべき点があり、よくわかりました。
他県からの参加でしたが大変勉強になりました。
就労移行という事業があったからこそ、就労支援は進んだと思う。片手間ではできないし事業として必要。
定着支援が日々の忙しさに追われ、疎かになっていることがあります。帰ってもう一度振り返り整理していきたいと思います。
今後の取り組みの参考になった。
現状やこれから検討していく内容など聞ける場がある事は、すごくいい事だと感じました。支援者としての意識が高まると思います。意見交換の内容もとても勉強になりました。結局は、支援者自身が育たないと就労移行支援事業所は成り立っていかないと思いましたので、今日勉強した事を現場に持ち帰って、日々の支援に役立てていきたいと思っています。ありがとうございました。
利用者のニーズと同時に「働くことがすばらしい」と前向きに進めて行く視点が必要とされる仕事だと感じました。

<全国就労移行支援事業所連絡協議会に対するご意見>

貴協議会のメンバーを増やし、全国展開されますように。就労移行、障がい者の一般就労に向けて就労移行支援事業所の灯を消さないように今後の活躍に期待しています。
まだまだ参加法人が少ないですね。これからどんどん広がればいいと思います。無料？の会場を探されたと伺いました。会費を募るなどして、団体になっていけるといいと思います。今日は参加させて頂いて、ありがとうございました。
全国就労移行支援事業所連絡協議会に入っていない所（市町村）がないようにしてほしい。重度の知的障がいをもっている人も働けるようにしてほしい。特別支援学校へ講師や助言、情報共有してほしい。
就職という施設の出口があって、社会の入口に立つ支援に関わることが出来る就労移行支援事業をコツコツですが、途切れることが無いよう取り組んでいきたいと考えております。目標は発表されていた、はぐるまの家のように地域に根ざした、地域で必要とされる機関になれるよう活動していくことです。

<職場定着支援について>

定着支援で他機関につなぐことも大切だと思います。ですが、家族・本人と関係ができており、『ここにいえば助けてくれる』『～さんだから』と頂いていると他機関へつなぐ判断がなかなかしづらいです。
本日は参加させていただき、ありがとうございました。日々、就労支援を行っており、定着支援

について、ご本人のことや、本人の環境をよく知る就労移行支援事業が行っていけることが良いと考えています。そのための対策がとられること願っております。

定着支援—相談支援センターも含め、ニーズに沿った多くの社会資源が担うべきと思う。移行支援事業所が中心になることはアリと思うが、その方の人生を丸ごと抱え込みになることを少し危惧する。

<就労移行支援事業全般の課題>

就労移行支援事業所でのトレーニングは就職するまでに必要なことですが、中にはトレーニングを行っても能力的に難しい方もいらっしゃいます。それでも彼らが就職できないとは思いませんし、そういう意味では企業に対するアプローチ支援が就労移行支援事業の本質ではと思っています。企業開拓のお話をぜひお聞きしたいです。本日は貴重なお話ありがとうございました。

障がい者の自立、就労に目が向けられて6年目となりました。一般企業での労働（就労）は得られる情報、本人の成長という点では多大なものとなります。そのような社会を構築していくためにも、施策の中で就労移行支援の機能強化、充実をはかってもらいたく再度ご検討願います。今後の協議会の強化のためにも地域毎の集約機能を持った事業所が身近にあり、そこが拠点となり地域活動していけるとよいと思います。ありがとうございました。

先日、ある高校の用務員の助手の就職が決まりかけたのに、利用者さんのストレスが原因で残念な結果になりました。難しいです。頑張ってください。

支援者の人材を育てる事は重要だと思っています。正しく障がいを理解し適切に支援できるということを自分ではできていると思っても、しっかり見つめ直して取り組むことが大切だと思います。

「就労移行支援の地域間差がある」という話題が出ておりましたが、地域内の質の差をどのように埋めていくのかも考えていく必要があると思います。また「就労」（どの様に定義するかも難しいですが）を考えるのであれば、就労継続B型や、地活との関係もさらに考え、深めていく場があればよいかと考えます。

特別支援学校高等部卒業者のアセスメントの件について、自立支援協議会を中心に施策を検討している状況ですが、現実的に受け入れをしてアセスメントとなれば、現実的には無理だと思っています。間違いなく事務に支障が大いに出ます。できればこの仕組みそのものを撤廃していただければ大変ありがたいと思っているのですが…いかがなものでしょうか？まさに戦々恐々です。1号ジョブとサビ管の兼務の問題ですが、何とか容認していただきたいです。「サビ管はジョブどころではない！」「余剰人員」でないという理屈はわかりますが、現実的には体制に難しい面は多々ありますので…